

平成28年度 村上・岩船家庭科部 活動報告

部長 佐藤 香織

1 研究主題

授業に役立つ家庭科指導教材の工夫

2 研究の概要

- (1) 4月・・・第1回部会（今年度の活動計画立案）
- (2) 8月上旬・・・第2回部会（5年生教材見本の作成）
- (3) 8月下旬・・・第3回部会（6年生教材見本の作成）
- (4) 2学期以降・・・各校で作成見本を使った学習指導の実践

3 研究の実際

(1) 製作の実際

<エプロン教材見本>

- 上とわきを三つ折りにして、縫った見本
- すそを三つ折りにして、縫った見本
- ひもの通し口を三つ折りにして、縫った見本

<ナップザック教材見本>

- 布を中表にして折り、平ひもをはさんで、左右を縫った見本
- 出し入れ口を三つ折りにして、縫った見本
- 口あきの処理の見本

<手さげバック教材見本>

- 布を中表にして、縫った見本
- 出し入れ口を三つ折りにして、縫った見本
- 裏からひもを付けた見本

(2) 学習指導「エプロン製作（5年生）」の実際

- ①大きさを決めて布を裁ち、印をつける際に見本提示
- ②上と脇を三つ折りにしてとめ、縫う前に見本提示
- ③すそを三つ折りにしてとめ、縫う前に見本提示
- ④ななめ部分を三つ折りにして縫う前に見本提示
- ⑤アイロンをかけ、ひもを通す際に見本提示



4 成果と課題

(1) 成果

- ・授業の中で、児童に製作手順を分かりやすく示すためには、見本が必要である。今回、家庭科部で製作した段階を踏んだ見本があったことで、授業が効率的に進められた。また、共同製作したことで、事前製作に要する時間が大幅に減った。
- ・教材見本の製作をしながら、5年生あるいは6年生にとって難しいと思われる箇所を確認することができた。児童へのどんなふうに指導をしたら良いか、どんな間違いが予想されるかなど、具体的に指導の仕方を考えることができた。

(2) 課題

- ・実際に授業を行ってみると、更に細かな手順の説明が必要であることに気付いた。教材見本をスモールステップで準備したり、より見やすい見本にするために、糸糸の使用や縫い目の大きさを工夫したりする必要がある。